

3. ねたきり老人，ひとり暮らし老人と一般高齢者の 日常生活の満足度の比較

1. 目 的

長崎市に居住する高齢者を対象に行われた生活実態調査について、ねたきり老人，ひとり暮らし老人と一般高齢者の日常生活の満足度の比較を行う。

2. 対象と方法

対 象 者：長崎市に居住する65歳以上の高齢者

調査期間：平成元年11月～12月

調査方法：面接による質問紙調査

対象者の性・年齢分布は，表1の通り。

3. 結果と考察

性別の日常生活の満足度を図1（男性）及び図2（女性）に示す。男性では、「ねたきり」及び「ひとり暮らし」のひとは「一般高齢者」に比べて，日常生活に不満を感じているひが多かった。それに対して女性では，「ねたきり」のひとは不満を感じているひが多かったが，「ひとり暮らし」のひとの満足している割合は「一般高齢者」と差がなかった。

「ねたきり」（表2）及び「ひとり暮らし」（表3）のひとの日常生活満足度を決定する要因を，ロジスティック回帰分析により求めた。「ねたきり」のひとでは，年齢が高くなるにつれて日常生活に満足しているひが多くなる傾向がみられたが，ねたきりの年数とは有意な関連はみられなかった。「ねたきり」の女性の日常生活満足度を決定するその他の要因として，経済状況と精神状態が得られた。「ひとり暮らし」のひとでは，年齢及びひとり暮ら

しの年数と日常生活満足度に有意な関連はみられなかった。「ひとり暮らし」のひとの日常生活満足度を決定する要因として，男性では健康状態，経済状況，親戚との交流，女性では健康状態，経済状況，健診の受診，外出頻度，近所づきあいが得られた。

三根ら（1992）は，「一般高齢者」の日常生活満足度を決定する要因として，男性では入浴，健診の受診，就業の有無，経済状況，女性では専用居室の有無，聴力，移動，経済状況，団体参加を上げている。これらの要因のうち経済状況や女性の団体参加などは，「ひとり暮らし」のひとの満足度を決定する要因としても共通にみられた。

4. 参考文献

三根真理子，他：高齢者の満足感を決定する要因分析，第51回日本公衆衛生学会総会。

〔本研究は第52回日本公衆衛生学会総会（平成5年10月20～22日，北九州）において発表した。〕

表1. 対象者の性，年齢分布

年齢	ねたきり		ひとり		一 般	
	男	女	男	女	男	女
65-69	13	7	2	40	238	246
70-79	62	42	31	287	312	303
80-89	61	123	23	107	85	122
90-	19	64	2	1	7	11
計	155	236	58	435	642	682

表2. ねたきり老人の日常生活満足度を決定する要因
(ロジスティック回帰分析)

変数	カテゴリー	男性 係数(p値)	女性 係数(p値)
年 齢	0 : 65-69歳	1.17(0.02)	0.74(0.04)
	1 : 70-79歳		
	2 : 80-89歳		
	3 : 90歳以上		
ねたきりの年数	0 : 3年以内	0.57(0.20)	-0.22(0.42)
	1 : 4-5年		
	2 : 6-15年		
経 済 状 況	0 : 苦しくない		-1.77(0.01)
	1 : 苦しい		
精 神 状 態	0 : 正 常		-0.61(0.10)
	1 : やや弛緩		
	2 : かなり弛緩		
	3 : 異 常		

目的変数(満足=1, 不満足=0)

表3. ひとり暮らし老人の日常生活満足度を決定する要因
(ロジスティック回帰分析)

変数	カテゴリー	男性 係数(p値)	女性 係数(p値)
年 齢	0 : 65-69歳	0.87(0.44)	0.56 (0.11)
	1 : 70-79歳		
	2 : 80-89歳		
ひとり暮らし の 年 数	0 : 5年未満	-3.03(0.14)	-0.17 (0.78)
	2 : 5年以上		
健 康 状 態	0 : 健 康	-3.49(0.05)	-1.45(<0.001)
	1 : 不健康		
経 済 状 況	0 : 苦しくない	-3.76(0.07)	-1.47(<0.001)
	1 : 苦しい		
親戚との交流	0 : 月1回以上	-3.36(0.03)	
	1 : 月1回未満		
健 康 診 断	0 : 受けた		-0.80 (0.04)
	1 : 受けない		
外 出	0 : よくする		-0.79 (0.01)
	1 : ときどき		
	2 : しない		
近所づきあい	0 : あ り		-2.23 (0.08)
	1 : な し		

目的変数(満足=1, 不満足=0)

図1. 日常生活の満足度（男）

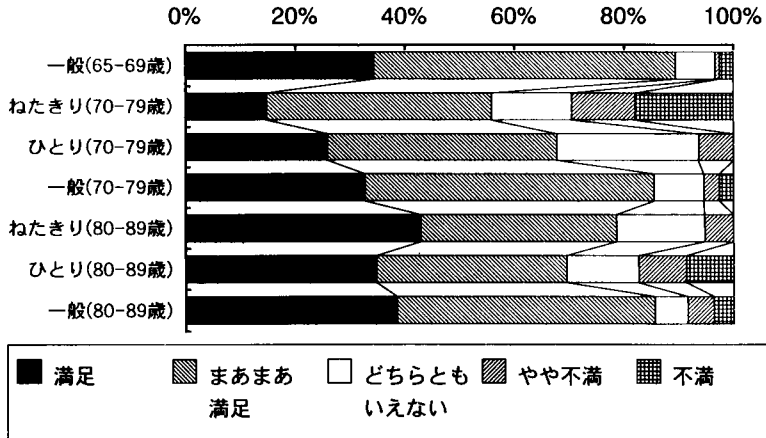


図2. 日常生活の満足度（女）

